

交流のひろば/agora—crosstalking—



bauma の海外展開 建設機械業界のビジネスプラットフォームとして

オイゲン・エゲテンマイヤー, 山賀 千 晶

ドイツ・ミュンヘンに本社を置くメッセ・ミュンヘン・インターナショナルでは、国際建設機械・建設資材製造機械・鉱業機械・建設車両専門見本市『bauma』を1954年から開催している。近年の市場のニーズから中国、インド、南アフリカといった成長市場への参入を図り、それぞれの国で業界最大級の専門見本市へと成長させている。建設機械業界と bauma 成功の秘訣について、bauma にとっての日本企業、またその成長と海外展開の事例を紹介する。

キーワード：建設機械、建設資材製造機械、鉱業機械、建設車両専門、ドイツ、中国、インド、南アフリカ

1. はじめに

メッセ・ミュンヘン・インターナショナル (MML, 写真-1, 2) は、ドイツ・ミュンヘンに本社を置く世界をリードする見本市会社の一つである。ミュンヘンの会場だけでも年間約 40 もの見本市を開催運営している。毎年 30,000 社を超える出展社と、約 200 万人の来場者が見本市会場で開かれるイベントに参加する、世界で最もモダンな見本市会場の一つである。

当社はミュンヘンだけでなく世界的成長市場でも見本市を開催している。「出展社は当社にサービスの国際化を期待している。世界的な事業展開をしていくために当社との提携を求めている」と、CEOのクラウス・デイトリヒは説明する。既に bauma, IFAT, electronica, ISPO のような見本市の国外展開に成功しており、将来的には、連携や買収を通し、見本市の国際分野におけるマーケットポジションを常に強化していく予定だ。

中国やインドのような主要国の他に、当社の戦略の焦点はロシア、ブラジル、トルコ、南アフリカにも置かれている。例えば、環境技術分野におけるドイツの技術や製品には、世界的に強い需要がある。このことは、ミュンヘンをベースとした環境技術の国際見本市であり、国際的に強力な拡大を見せている見本市「IFAT」の成功にも反映されている。中国で IE expo という名のもとに開設された後、今年インド、ムンバイで IFAT India が初開催を成功させ、2015年トルコで開催される IFAT EURASIA がそれに続く予定だ。



写真-1 メッセ・ミュンヘン正面玄関



写真-2 メッセ・ミュンヘン全体像

当社は関連会社 9 社及び 60 ヶ国以上に代表部事務所を抱えており、90 ヶ国以上に世界的なビジネスネットワークを持っている。さらに、中国のインフラにも投資しており、合弁事業によって建設された上海新国際見本市会場 (SNIEC) は 2002 年にオープンし、現在の非常に高い稼働率を誇る中国で最も成功している見本市会場となっている。SNIEC においては、当社単独で 7 つの見本市、analytica China, bauma China,

electronica China, IE expo, Laser World of Photonics China, productronica China, transport logistic China を開催している。

当社が世界の新成長地域で見本市を開催することにより、企業に対し、ビジネス展開に欠かせない、とりわけ高品質なプラットフォームを提供することができる。長年培った業界専門知識や市場知識をもって、常に高品質なサービスやビジネスプラットフォームを提供することで、企業規模にかかわらず、当社は新規マーケット参入する企業にとっての心強いパートナーとなっている。

2. bauma- 国際建設機械・建設資材製造機械・鉱業機械・建設車輛専門見本市

(1) bauma (ドイツ・ミュンヘン開催)

建設機械見本市に関していえば、メッセ・ミュンヘンには長い伝統がある。初めて bauma が開催されたのは 1954 年で、その展示面積は 20,000 m² だった。それ以来 bauma は大きく成長し続け、2010 年には 555,000 m²、2013 年には 575,000 m² に至るまで発展を遂げてきている。

bauma 2013 では、575,000 m² という記録的な展示面積を利用し、ドイツから 1,346 社、ドイツ国外から 2,074 社、57 カ国から計 3,420 の出展社が、建設・鉱業機械における最新の製品とイノベーションを紹介した (写真-3, 4)。

また、200 カ国以上の国々から 530,000 人の来場者がミュンヘン見本市会場に集まった。出展社数と展示



写真-3 bauma 2013 屋外エリア



写真-4 bauma 2013 屋外エリア

面積において、同見本市の過去記録を全て破ったというだけでなく、これまでで最も多くの来場者を集めた。世界各国から 200,000 人以上の来場者がドイツ国外から集まり、過去最高を記録した。来場者の多い国は上位から、ドイツ、オーストリア、スイス、イタリア、ロシア連邦、フランス、オランダ、英国、スウェーデン、ポーランドで、bauma の今年のパートナー国であるインドネシアも、政府高官による代表団と約 800 人の来場者により、その存在感を強く示した。

bauma は建設機械、建設資材製造機械、鉱業機械、建設車輛、建設機器において紛れもなくナンバーワンの見本市だ。ドイツ国内の bauma にとどまらず、当社は過去数年にわたり建設機械関連見本市の国際化を進めてきた。次回の bauma は 2016 年、4 月 11 日から 17 日にドイツ、ミュンヘンにて開催される (写真-5)。



写真-5 bauma 2013 入口

(2) bauma China (中国・上海開催)

2002 年から中国・上海で開催されている bauma China は、年々規模を拡大し、2012 年に初めて上海新国際見本市会場 (SNIEC) の全面積である 300,000m² を占め大きな成功を収めている (図-1, 写真-6)。

より多くの来場者、出展社、展示面積—世界中の産業界における市場低迷、売上高減少にもかかわらず、2012 年に開催された第 6 回 bauma China は再び全ての記録を更新した。11 月 27 日から 30 日にかけて、

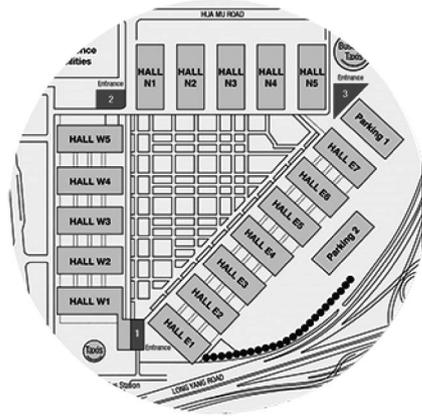


図-1 SNIEC ホール全体図



写真-7 bauma China 2012 会場内



写真-6 bauma China 2012 開会式



写真-8 bauma China 2012 屋外エリア

約 180,000 人の来場者（2010 年は 155,615 人）が上海新国際見本市会場に集まった。前回比 16% の増加である。この結果により、中国だけでなくアジア圏への進出を考える企業にとっての主要なビジネスプラットフォームであることが証明されたのだ。実際、中国国外からも多くの来場者を集めており、中国に続く、来場者数の多い国上位 10 位は、ロシア、韓国、インド、マレーシア、シンガポール、日本、タイ、台湾、香港、そしてトルコだった。また、史上初となったのは、bauma China が上海新国際見本市会場の全展示面積である 300,000 m² を占めたことだ。これは前回 2010 年の bauma China より 30% も規模を拡大している。また出展社数も過去最高の 38 カ国から 2,718 社で、前回比 46% 増という驚異的な成長を見せている（2010 年は 37 カ国から 1858 社、写真-7、8）。

中国からは 1,837 社の企業が出展し、出展社の多くを占めているが、bauma China にこれほど多くの国際企業が参加したのは初めてのことだ。中国に続く、参加出展社の国別上位 5 位は、ドイツ（172 社）、イタリア（122 社）、米国（116 社）、韓国（67 社）、日本（49 社）であった。また、オーストリア、ドイツ、フィンランド、英国、イタリア、韓国、スペイン、米国の 8 つの国家パビリオンと、今回初となった韓国仁川商

工会議所主催、仁川市からの出展社による合同ブーススタンドが設けられた。

次回の、このアジアにおいて業界最大級かつ最重要見本市は、2014 年 11 月 25 日から 28 日に、上海新国際見本市会場（SNIEC）にて開催される。

しかし当社が bauma のコンセプトを移した先は、中国だけではない。

(3) BAUMA CONEXPO SHOW-bC India（インド開催）

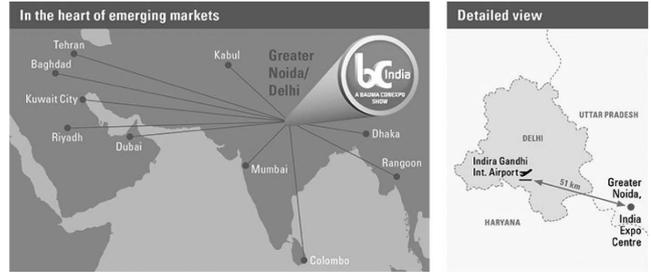
当社は、米国で CONEXPO CON/AGG（国際建設機器見本市）を主催する製造業協会（AEM）とともに、bC India を開催している（写真-9、10）。

2013 年 2 月 5 日から 8 日にムンバイのバンドラクアラコンプレックスにて開催された第 2 回 bC India は、建設機械産業界が置かれている困難な状況下にも関わらず、インド市場においての存在感を明白にした。150,000 m² の展示スペースには、33 カ国からの 710 社が出展し、28,000 人以上の業界関係者が来場した。710 社のうち、61% の 437 社がインド国外からの出展社で、中国、フランス、ドイツ、イタリア、日本、韓国、ポーランド、スペイン、英国の 9 カ国が国家パビリオンとして参加した（図-2）。

ムンバイで開催され大成功を収めた 2 回に続き、bC India はその開催場所をインドの首都近くのグレー



写真—9 bC India 2013 開会式



図—3 bC India 2014 開催場所

トワークを南アフリカに拡大した。

(4) bauma Africa (南アフリカ・ヨハネスブルグ開催)
 2013年9月18日から21日にかけてヨハネスブルグ・ギャラガーコンベンションセンターにて行われた初の bauma Africa は、華々しくアフリカ市場への参入を果たし、すでにアフリカで業界一大きなイベントとなった(写真—11, 12)。

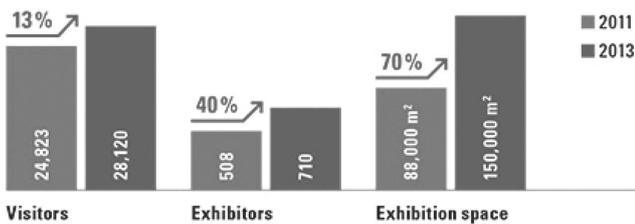


写真—10 bC India 2013 屋外エリア



写真—11 bauma Africa 2013 開会式

bC India: A success from the beginning



図—2 bC India 来場者数・出展社数・出展規模の成長

ターノイダへ移そうとしている。次回第3回目を迎える bC India は、2014年12月15日から18日に開催予定だが、場所をムンバイからデリー近郊のグレートノイダにあるインドエキスポセンターに移して開催予定だ。この見本市会場では、ムンバイの会場より広い170,000m²が利用できる。また、屋内外の展示スペースを完備しているだけでなく、ビジネス・カンファレンスセンター、プレスセンター、飲食設備までも揃えており、インフラも整っている(図—3)。

そして当社は今年、建設機械分野における国際ネッ



写真—12 bauma Africa 2013 屋外エリア

展示面積総計 60,000 m² に、8カ国から計 754 社の出展社が bauma Africa に出展した。123 社が南アフリカからの出展で、続いて出展が多かった国は中国、ドイツ、インド、イタリア、韓国、スペイン、英国、米国だった。会場には 110 ヶ国から 14,700 人が来場。

その 84% が南アフリカから、6% がその他アフリカ諸国から、残り 10% がアフリカ以外の国からの来場

で、上位 10 か国は南アフリカ、モザンビーク、ドイツ、ボツワナ、ジンバブエ、ザンビア、ナミビア、英国、インドであった。注目市場にいち早くビジネスプラットフォームを確立し、世界各国からの注目を集めている。

3. bauma 成功の理由

重要なポイントの 1 つは、産業自体にある。幸いにも、世界的な不況とは関係なく、建設と建設機械のセクターは非常に安定しており、環境としては確実に良い位置にいた。その上、数年にわたり、bauma は建設機械産業において世界で最も重要な見本市へと発展してきた。世界中から産業の最高意思決定者や膨大な数のバイヤーと専門家を引きつけている bauma は、すべての国際市場の業界関係者にとって最重要なビジネスの場と言える。手短かに言えば、それが見本市のあるべき姿であり、それが成功の秘訣だ。

bauma の利点は、機械というトピックスに焦点をあてることで、様々なセグメントが非常に明確に構造化されているということだ。また、非常に多くの新技術が展示されることでよく知られており、これほど多くの新商品と革新技術が一堂に会する建設機械業界専門見本市は他にない。そして出展社、来場者は、bauma ブランドが高品質なビジネスプラットフォームを提供していることを認識しているため、ミュンヘン以外の成長市場においてのビジネスを拡大する際に bauma を利用する。また来場者に対する我々の目標は、多くの国際的な重要人物に会うことができ、その製品と革新に関する知識を深めることのできるプラットフォームを提供することだ。そして、当社の見本市のもうひとつの勝利要因は、関連会社 9 社及び 60 ヶ国以上に代表部事務所を抱えており、90 ヶ国以上に世界的なビジネスネットワークを持っていることだ。これにより、世界中からの出展社と来場者は、見本市の準備をするにあたり母国語でのサポートを受けることができる。

4. bauma の中国、インド、南アフリカへの展開について

bauma 海外展開の第一歩は 2002 年初回開催の bauma China で、当時既に中国は建設機械見本市の膨大な可能性を秘めた有望な市場であった。bauma China は、初開催以来著しい成長を見せており、今後ますます拡大していく予定だ (図-4)。

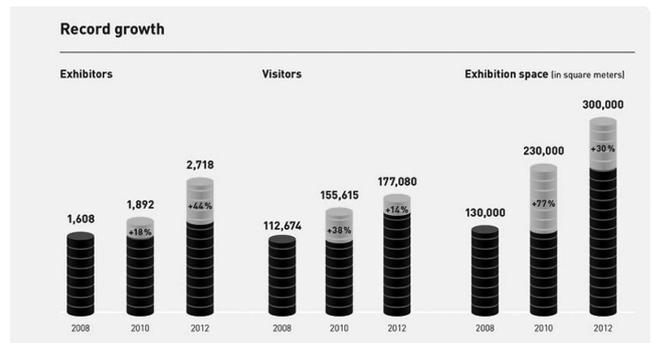


図-4 bauma China 出展社数・来場者数・出展規模の成長

当社は、これと同じスキームを bauma Africa および bC India に展開をしている。南アジアおよび南アフリカ市場は、ともにその膨大な可能性と、長期的な経済的發展の見込める地域だと認識している。当社が海外展開をする際、通常、見本市に参入する前にそれぞれの市場で選別を行う。その結果、我々はそれぞれの市場が、将来性のある市場であるかどうかを事前に綿密に調査する。つまり、当社では短期的な計画ではなく、長期的に成功する市場での可能性を見出すことに重点を置いている。

5. bauma にとって日本企業とは

すべての bauma について、日本からの関心は常に高いものであった。例えば、2013 年 4 月にミュンヘンで行われた bauma には、日本から 2,370 人もの来場者が訪れ、bauma China には前回、出展参加国としては 6 番目に多い、49 社の日本企業が出展し、835 人が来場した。また、bC India では、日本はジェットロにより開催された日本パビリオンを含め 17 社が出展し、出展参加国第 8 位となった。bauma Africa に関しては、2 社の単独出展に加え、様々な日本のブランドが現地販売代理店を通して見本市に参加した。日本企業にとって、今後アフリカ市場はとて重要になり、bauma Africa への参加も増えると確信している。例えば古川ロックドリル株式会社、株式会社日立製作所、株式会社加藤製作所、川崎重工業株式会社、コベルコ建機株式会社、株式会社小松製作所、株式会社クボタ、酒井重工業株式会社、住友建機株式会社、株式会社タダノ、株式会社竹内製作所、などの日本企業がこれまで OEM を通して貢献してくれた。そのため、世界中の bauma 見本市は着実に重要性を増し、現在、世界の建設機械および鉱業機械市場にとって極めて重要なものとなったのだ。

6. おわりに

現在、baumaをはじめとした建設機械見本市を世界4ヶ所で開催し、それぞれを世界最大級の見本市として、またビジネスプラットフォームへと成長させてきた。今後も、常に世界中の様々な市場の可能性を注意深く観察し、調査を続け、次の展開を検討している。しかしその一方、顧客のリソースが限られていることも考慮に入れなければならない。現在は、顧客からの要望に沿い、ヨーロッパ、中国、インド、およびアフリカにおける既存見本市に焦点を当て、それぞれの質と満足度の向上を目指している。

市場のニーズに合わせて成長し続けるbauma及びメッセ・ミュンヘン・インターナショナルへ、今後ともご支援を賜りたい。

JCMA

[筆者紹介]

オイゲン・エゲテンマイヤー
メッセ・ミュンヘン・インターナショナル
常務取締役



山賀 千晶 (やまが ちあき)
メッセ・ミュンヘン・インターナショナル日本代表部
代表

